

# 株式会社フィックスターズ

## 2025年9月期 第1四半期決算補足説明資料

2025/2/6

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

**1**

# 2025年9月期 第1四半期 決算説明

## ・ 前年同期比で大幅な増収・増益

- ・ 売上高 : 2,319百万円 (前年同期比+25.1%)
- ・ 営業利益 : 738百万円 (前年同期比+40.7%)

## ・ Solution事業 : 着実な成長を続ける

- ・ 高速化サービスを中心に旺盛な需要
- ・ ストック型収益モデルの構築に向けた取り組みを継続、深化
- ・ 積極的に人材採用活動を実施

## ・ SaaS事業 : 収益化に向けて各事業を推進

- ・ 「Fixstars K4」を機能強化し「Fixstars AI Booster」としてリブランディング  
AI開発の高速化、運用コスト低減を訴求し、  
Solution事業との連携を深めた営業活動を実施

## 連結損益計算書

主力であるSolution事業の好調が大きく貢献し、前年同期比で大幅な増収・増益を達成。

(単位：百万円)	2024年9月期 1Q	2025年9月期 1Q		
	実績	実績	前年同期比	通期進捗率
売上高	1,854	2,319	+25.1%	24.9%
営業利益	524	738	+40.7%	28.4%
売上高営業利益率	28.3%	31.8%	+3.5pt	
親会社株主に帰属する 当期純利益	337	459	+36.0%	24.2%
売上高当期純利益率	18.2%	19.8%	+1.6pt	

## 売上高

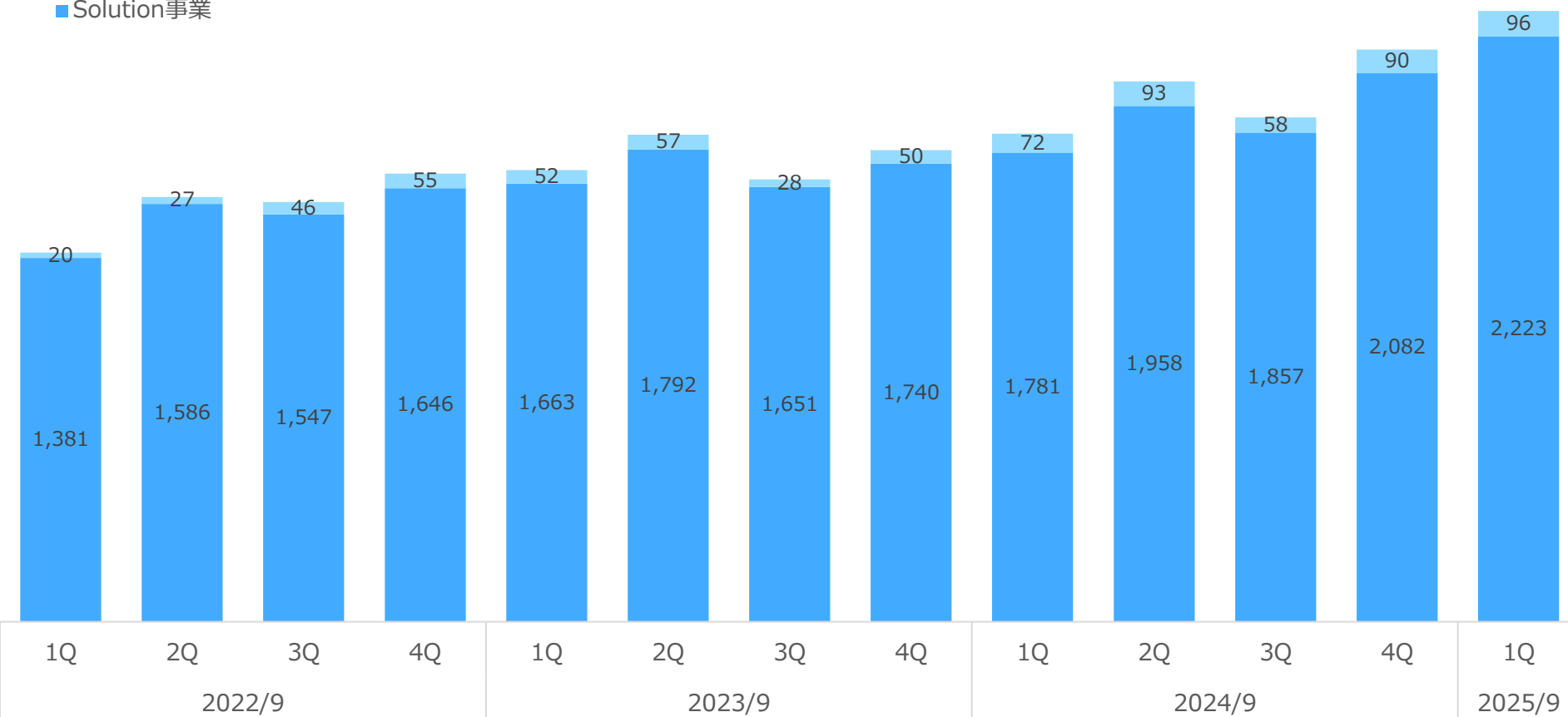
過去最高の四半期売上高を計上。

Solution事業においては自動車業界関連の引き合いが特に強く、案件規模拡大に注力中。

SaaS事業ではSolution事業と連携し、Fixstars Amplify及びFixstars AI Boosterの販売活動に注力。

- SaaS事業
- Solution事業

(単位：百万円)



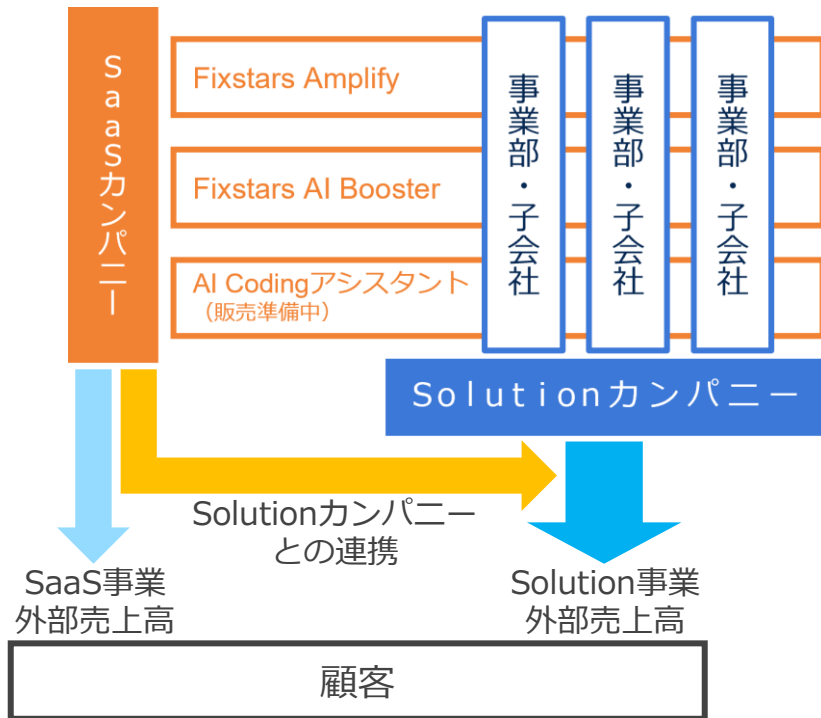
## 売上高：SaaS関連のストック収益推移

中期経営方針として、ストック型収益拡大への取り組みを強化。

Solutionカンパニーの各組織と連携して、Fixstars Amplify及びFixstars AI Boosterを中心としたSaaS製品の販売を推進中。

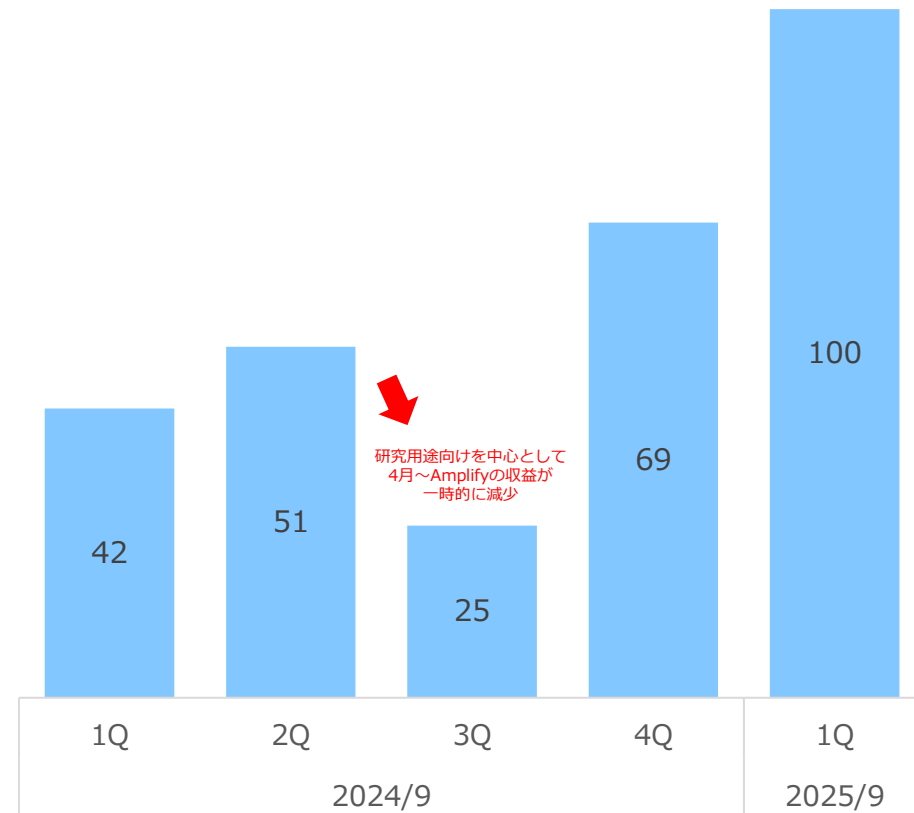
### ストック型収益拡大のための施策

Solutionカンパニーの事業部/子会社に  
横串でSaaSカンパニーの製品を販売する体制を構築



### SaaS関連のストック収益推移

(単位：百万円)



## 営業利益\*

\* 主要なセグメントのみを記載

Solution事業において安定的に収益を獲得し、引き続きSaaS事業へ積極的な投資を実施。

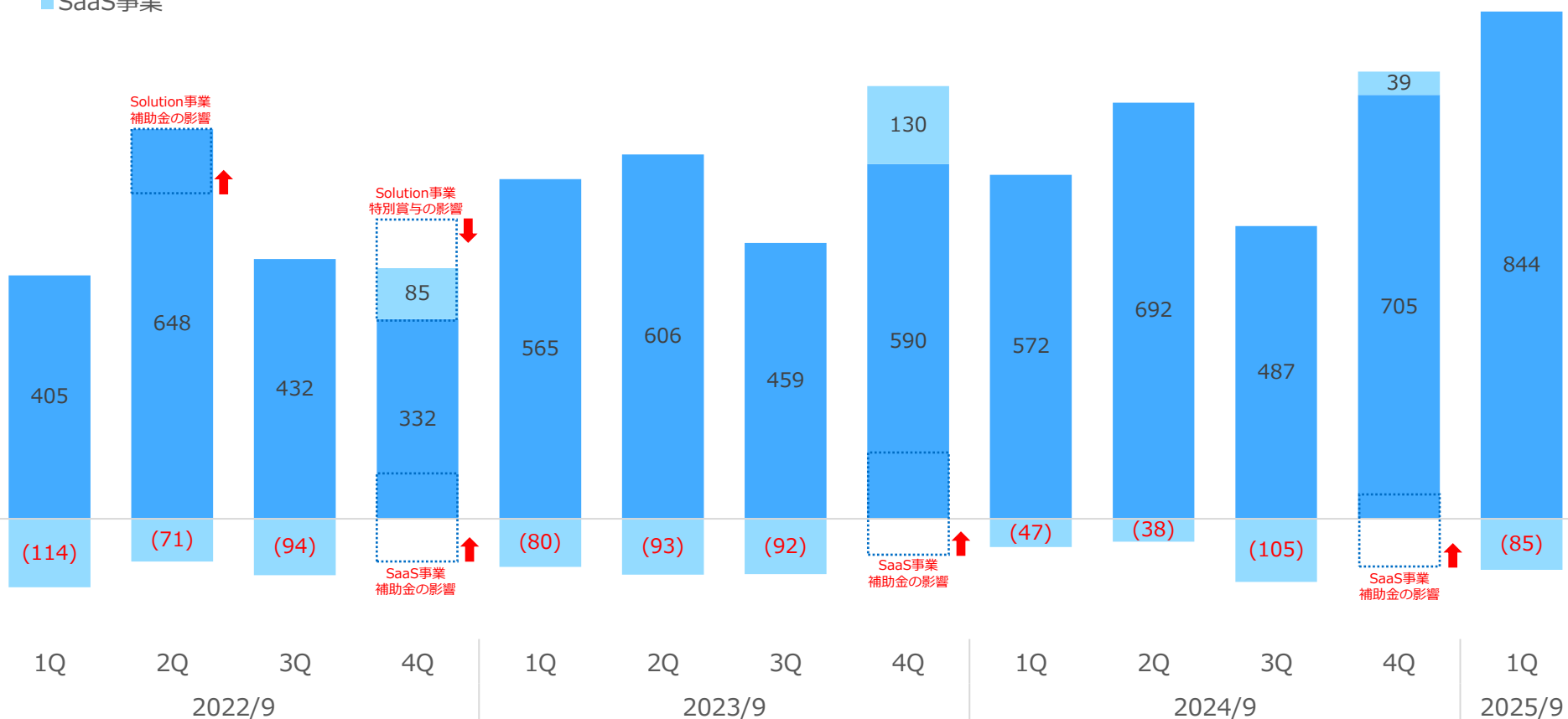
Solution事業は四半期での過去最高益を達成。

SaaS事業においては、前期後半からAI関連事業への投資を開始した影響により、赤字が従前の水準へ。

(単位：百万円)

■ Solution事業

■ SaaS事業





## 売上高・営業利益進捗率\*

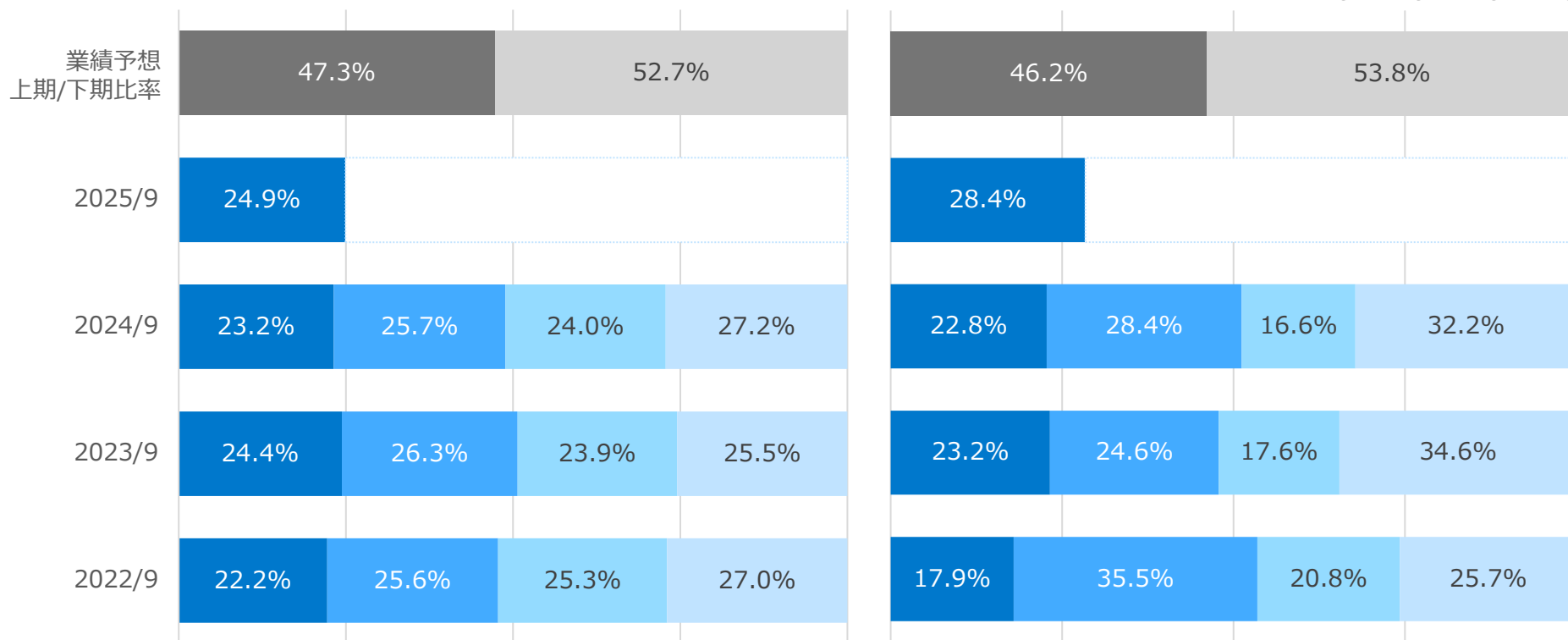
\* 当期の進捗率：四半期実績値 / 通期業績予想値  
 過年度の進捗率：四半期実績値 / 通期実績値  
 (小数第二位四捨五入)

売上高・営業利益ともに過年度における1Q時点の進捗率を上回り、好調なスタート。

売上高進捗率

営業利益進捗率

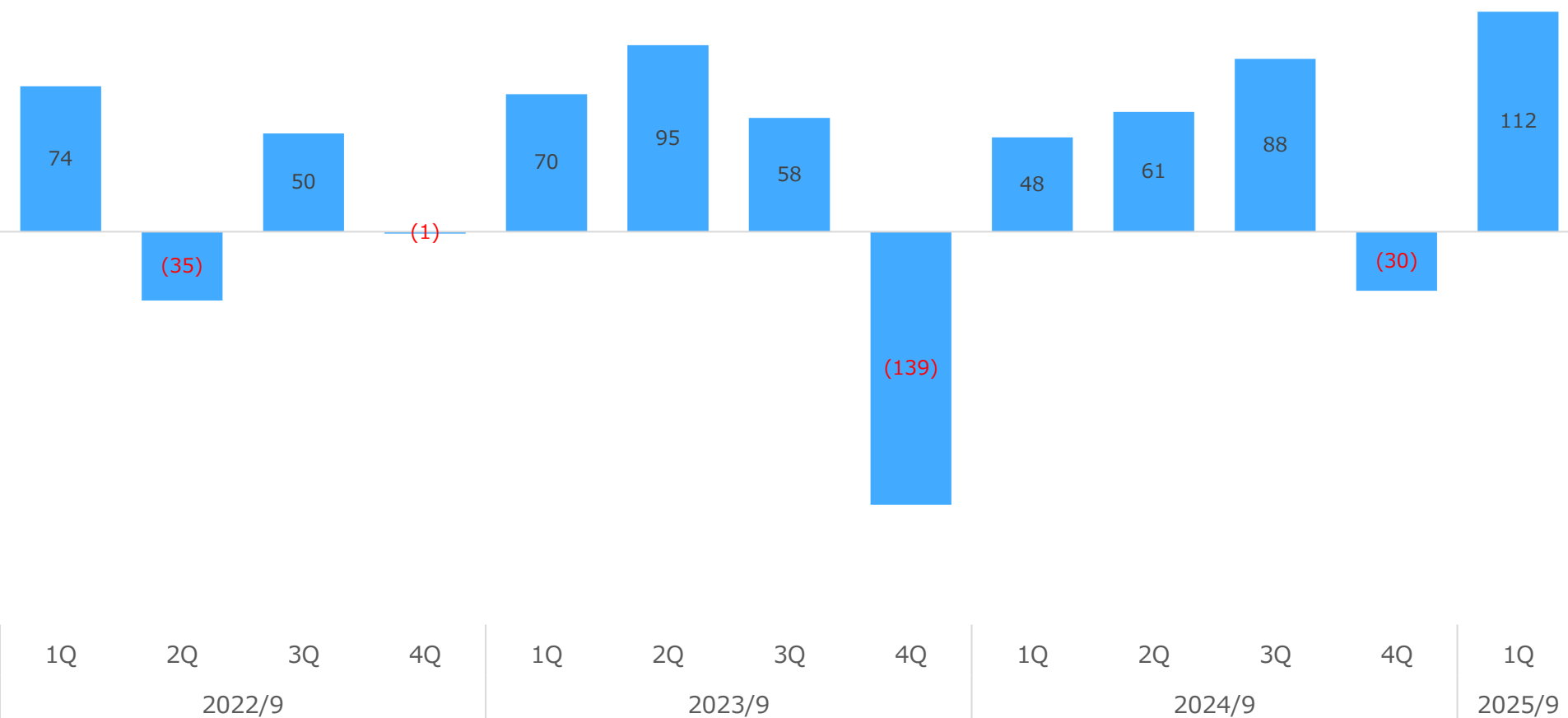
■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



## 研究開発費

AI関連事業の研究開発を拡大。量子コンピューティング関連ではNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。  
補助金の確定額を研究開発費から控除しており、確定した四半期（各期4Q及び2022年9月期2Q）においては研究開発費の計上額が減少。

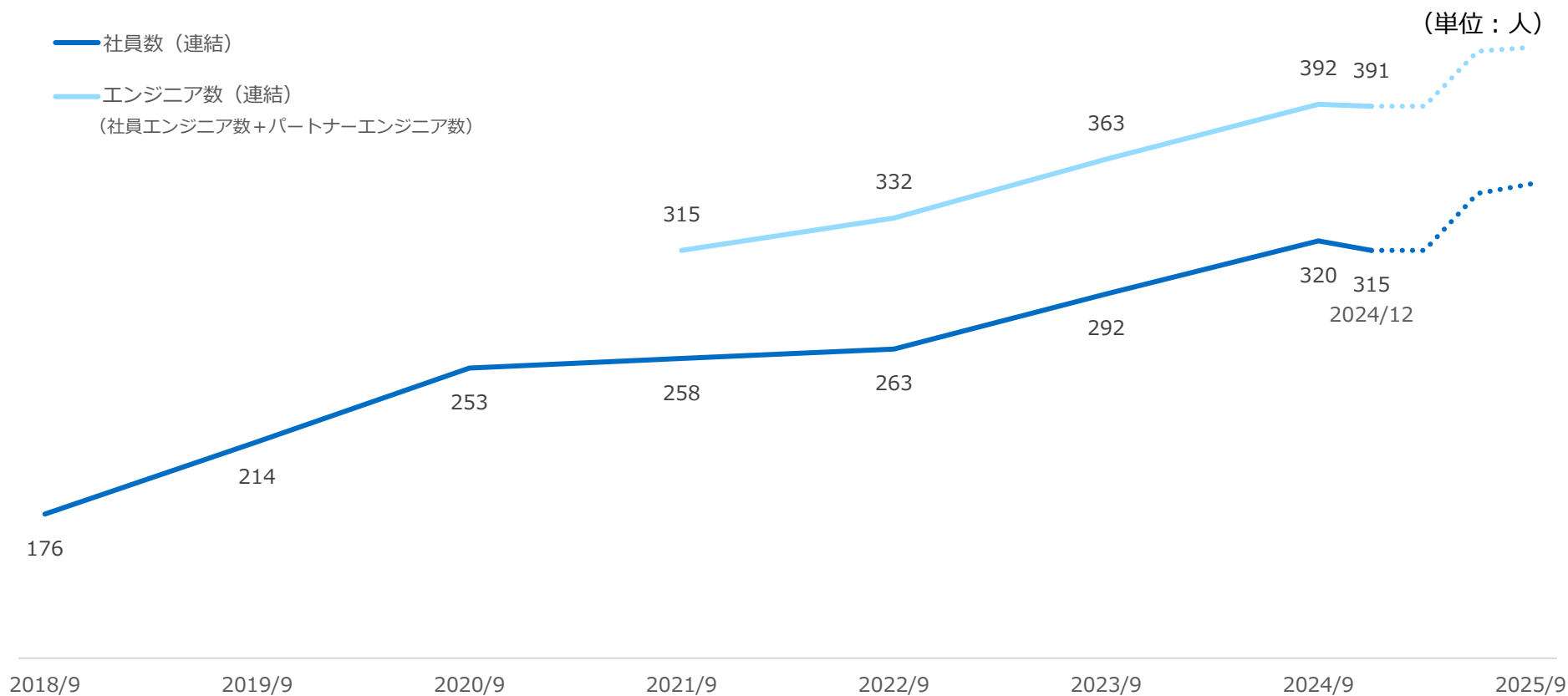
(単位：百万円)



## 社員数・エンジニア数\*推移

\* エンジニア数の集計は2021年9月より

採用活動に注力し、様々なチャネルを利用した活動を実施中。  
当期も20名超の新卒採用を予定しており、近年と同水準での組織拡大を図る。



2

## 2025年9月期 通期業績予想

## ・ 売上、利益とも過去最高を見込む

- ・ 売上高 : 9,300百万円 (前期比 + 16.3%)
- ・ 営業利益 : 2,600百万円 (前期比 + 12.8%)

## ・ 中期経営ビジョンの実現に向けて

- ・ フロー型収益の持続的な成長を継続しつつ、  
フロー案件を入り口としたストック型収益の拡大を図る
- ・ Solution事業とSaaS事業の連携強化
- ・ 「技術」と「経営」がわかる人材育成の継続

## 連結損益計算書・配当金

4期連続で増収増益（売上高・利益ともに過去最高）を見込む。当期純利益は子会社清算に伴う税負担の一時的な軽減により増加幅が大きくなる見込み。  
配当は連結配当性向30%を目安に実施する方針。

(単位：百万円)	2024年9月期	2025年9月期	
	実績	予想	前期比
売上高	7,995	9,300	+16.3%
営業利益	2,304	2,600	+12.8%
売上高営業利益率	28.8%	28.0%	▲0.9pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,494	1,900	+27.2%
売上高当期純利益率	18.7%	20.4%	+1.7pt
1株当たり当期純利益	46.39円	58.98円	+27.1%
1株当たり配当金	14円 + 記念配当5円	18円	+4円 (記念配当除く)



## 補足資料

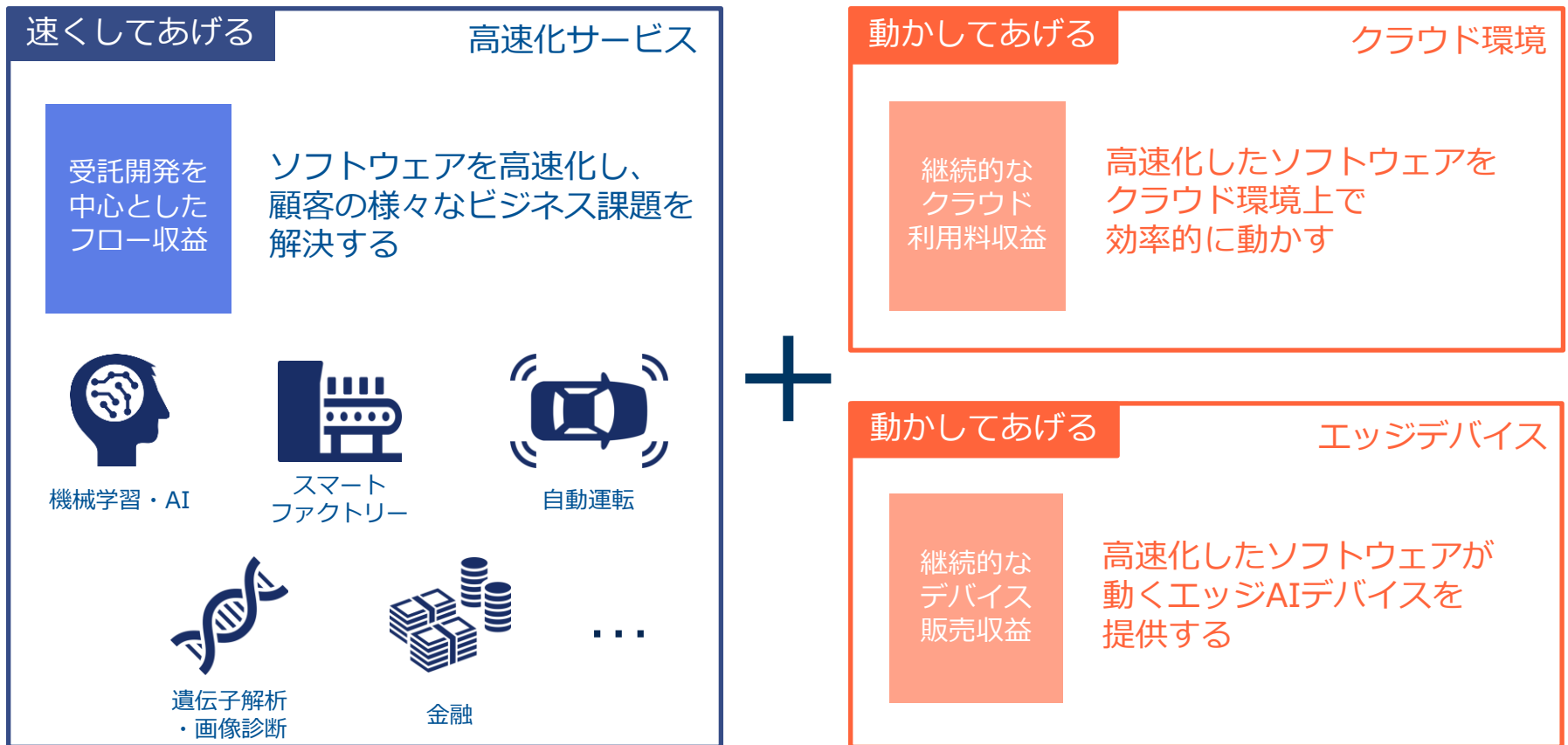
3

## 補足資料① 個別事業の状況



## 「速くしてあげる」 + 「動かしてあげる」

主力である受託開発（速くしてあげる）を中心としたフロー収益だけでなく、その動作環境も提供する（動かしてあげる）ことでストック収益を拡大し、より強固なビジネスモデルを構築します。

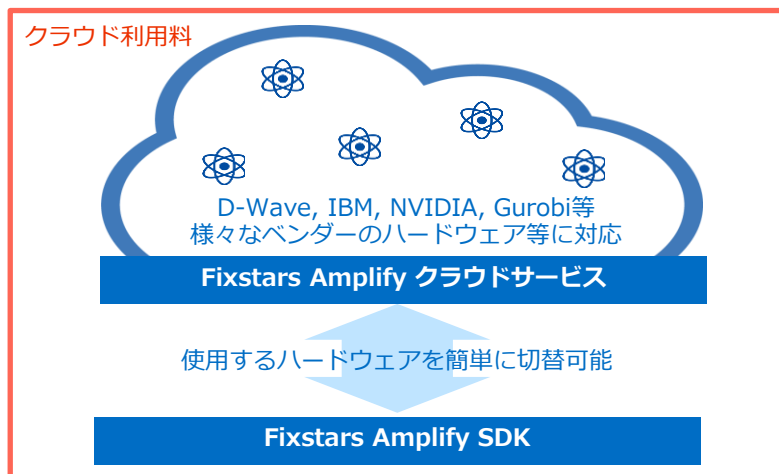


## 実用化が進む「量子インスパイアードコンピューティング」

量子コンピュータの実用化に先駆け、その計算手法を従来のコンピュータに適用した「量子インスパイアード技術」を活用して、複雑な組合せ最適化問題の解決に貢献。

問題解決のためのコンサルティング・ソフトウェア開発等（フロー収益）とクラウド利用料（ストック収益）の両面で事業を推進しています。

### サービス概要



ハードウェアごとの違いを意識する必要がない  
より簡単で分かりやすいアプリケーション開発環境



### 事業の状況

- ☑ 展示会出展やセミナー開催によるリード獲得活動を継続  
国内を中心に累計800超の組織からのユーザ登録
- ☑ クラウド利用料収益は約2,000万円/月前後で推移

### 今後の施策

- ☑ グループ各社での連携を深め、将来のストック収益獲得につながる顧客との関係を強化
- ☑ 大学や産業界と連携し、実社会問題を1つずつ解決、実運用事例を積み上げていく
- ☑ Amplifyクラウドサービスのユーザを拡大・活動を支援し、実証実験等の促進に繋げる
- ☑ Amplifyクラウドサービスの拡張を続け、実社会問題への対応領域を広げるとともに、組合せ最適化問題解決のプラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す

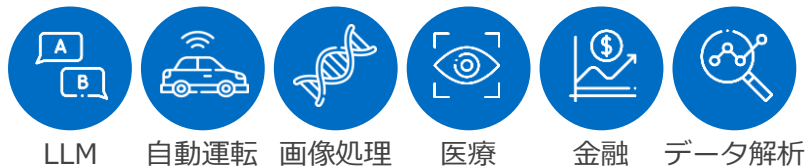
## コスト効率の高いAI開発・運用を実現するプラットフォーム

AI開発・運用の現場において不可欠となっているGPU。その高い計算能力を十分に活用できていないケースは少なくありません。

Fixstars AI BoosterによってGPUをより高効率に活用することで、開発期間の短縮、運用コストの低減を実現し、顧客の製品競争力の強化に貢献します。

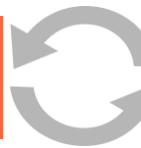
### サービス概要

GPUで膨大な計算を行うAIアプリケーション



### Fixstars AI Booster

AIの  
ボトルネックを  
モニタリング



性能改善方法の  
探索

高速化＝クラウド利用コスト削減



GPUサーバ

当社の  
エキスパート  
による支援

### 事業の状況

- ☑ 従来のさくらインターネットとの協業に加え、AWSとの協業を開始



- ☑ ソニー・ホンダモビリティ社がEV「AFEELA」における自動運転AIの開発環境として活用

### 今後の施策

- ☑ Solution事業の顧客リレーションを活用した営業活動
- ☑ クラウドGPUベンダー各社との協業体制を強化
- ☑ 製品の機能強化、活用事例の蓄積、知名度向上

## 乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。  
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

## サービス概要

慶應義塾大学予防医療センター（麻布台）を  
ファーストカスタマーとして導入調整中

医師 / 検査技師



クラウド等での  
乳がんAI診断支援

将来的な  
診断装置との連動

安心な環境の提供

アプリ  
による支援

患者さん



アプリ  
による情報提供

METIS Eye  
(乳がん超音波画像診断支援)

ePRO<sup>1</sup> / PSP<sup>2</sup> による患者サポート



Smart Opinion (当社子会社)

## 事業の状況

- 各社の医療用画像管理システム（PACS）とシステム連携中
- 製薬会社向けに、ePRO及びPSPによる、患者サポートを提供
- 米国を代表する医療機関、Mayo ClinicとAIモデルの実証実験を開始、海外展開への足がかりに

## 今後の施策

- 学会・健保組合・クリニック等多方面から普及を推進
- 普及に向けてのブランディング強化
- 海外展開に向けた活動

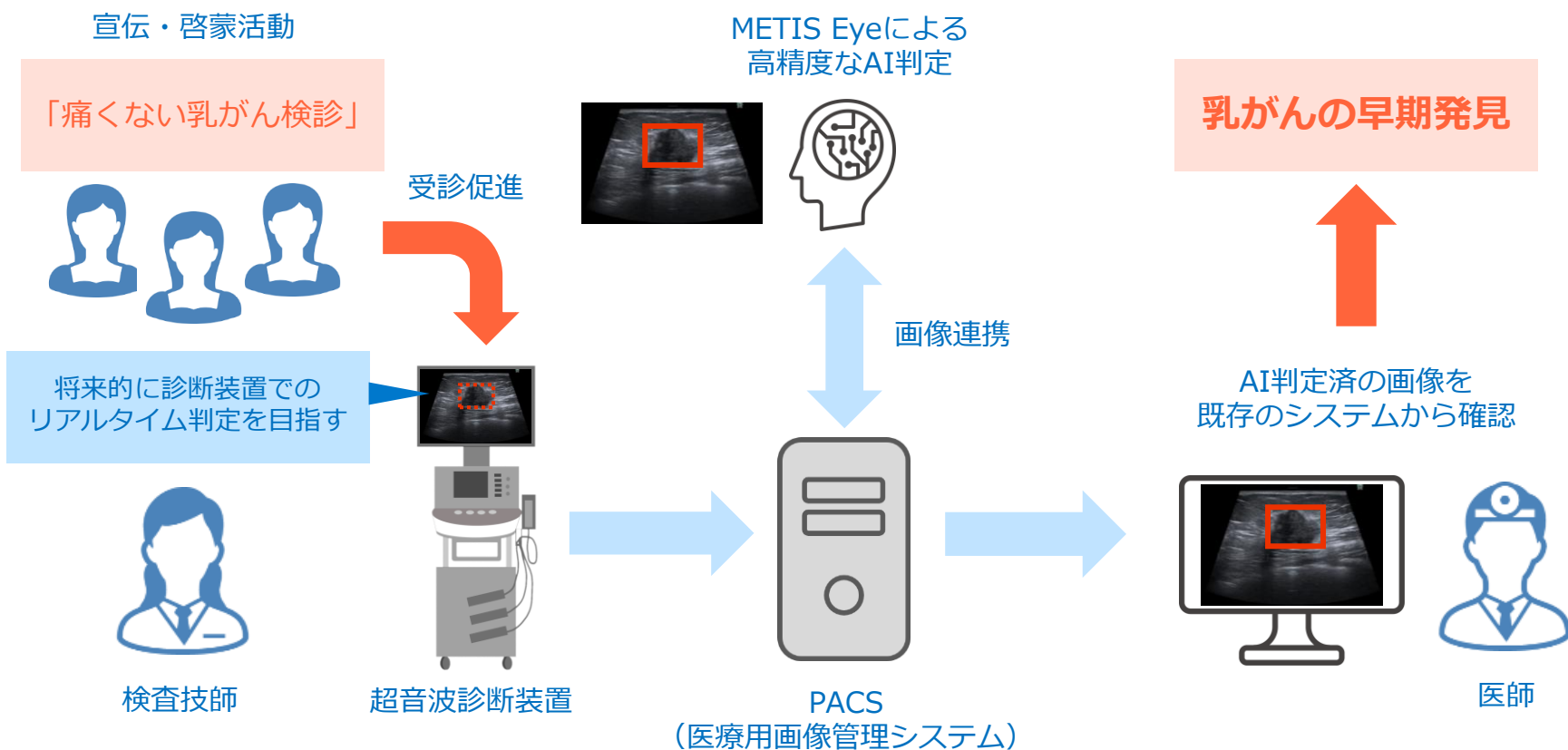
Note: 1) e-Patient Reported Outcomes: ITを活用して、患者の症状や副作用の状況をモニターするシステム

2) Patient Support Program: 疾病やその治療に関する情報提供、多様な患者ニーズへのサポートなどを通じて、患者のQOL向上に寄与することを目的としたプログラム

## サービス提供イメージ

PACS (医療用画像管理システム) と連携することで、読影のサポートをスムーズに行います。

将来的には、超音波診断装置での読み取り中にリアルタイムでの判定結果を表示することを目指し、開発を進めています。



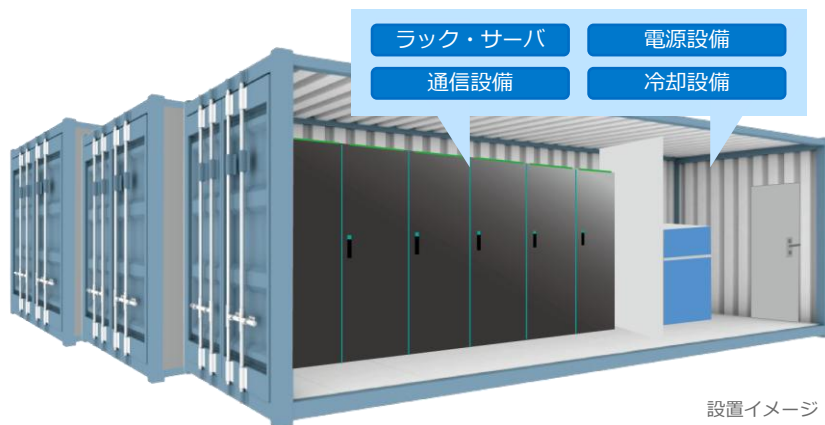
## AI時代を見据えた高性能データセンター

長野県にコンテナ型水冷データセンターの開設準備中。

県からの助成金を活用し高性能データセンターを構築、ストック収益の拡大を目指します。

## データセンターの概要（予定）

- コンテナ型データセンター  
 大規模な建物設備が不要で設置場所の柔軟性が高く、迅速に構築が可能
- サーバの冷却に水冷方式を採用  
 従来の空冷方式に比べ冷却性能・エネルギー効率が  
 高く、高性能（高発熱）なサーバの運用が可能



設置イメージ

## 背景・狙い

- 膨大な計算を必要とする生成AI等の発展に伴い、サーバの消費電力・発熱も増大を続ける中、「サーバをいかに冷やすか」が課題になっている
- コンテナ型・水冷方式での商用運用を国内でいち早く開始し、他社に先行して知見を蓄積する
- 顧客ニーズに特化して開発した高速アプリケーションを運用できる体制を整え、データセンター利用料に加えてシステム運用費等の追加収益を獲得する

## 現状・今後の展開

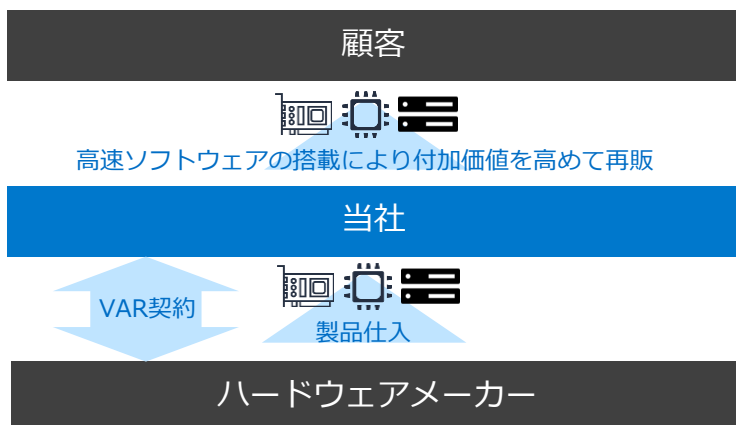
- 水冷サーバの実証実験において業界最高水準の電力効率を達成
- データセンター機材・設備仕様についてパートナー企業との協議に時間を要している状況  
 稼働開始予定は2025年4月以降となる見通し
- 2027年9月期にかけてコンテナ設備・サーバ等を中心に約8.4億円の設備投資を予定  
 （うち3億円が長野県から助成予定）

## VAR (Value Added Reseller) としての取り組み

ハードウェアメーカーの製品に、より付加価値を高めるソフトウェアを搭載して販売する取り組みを行っています。  
既に実績のあるAMD-Xilinx FPGAボードのみならず、ドローンや各種センサーなど、当社の技術が強みを持つ分野での拡大を目指します。

### 事業の概要

- ☑ ハードウェアメーカーの製品に最適化された高速なソフトウェアを搭載し、より付加価値の高い製品として販売する
  - ・ FPGAボード上に高速・高効率な回路を実装
  - ・ 当社SaaS製品をオンプレミス版として搭載
  - ・ ドローンに自動飛行機能を付加



### 当社としての狙い

- ☑ 製品販売による継続的な収益  
エンジニアの人数に依存しない収益モデルを構築する

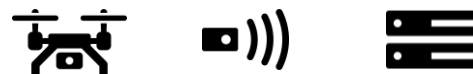
### 今後の施策

- ☑ AMD-Xilinx FPGAボードの販売拡大



Alveo Accelerator Card Partner Network /  
Solution Integrators

- ☑ Fixstars AmplifyやAI Codingアシスタントを搭載した  
アプライアンスサーバの販売  
クラウドが使用できない高セキュリティ環境での需要に応える
- ☑ ドローン、各種センサー、水冷サーバ等、  
新しい商材での事例構築



# 4

## 補足資料② フィックスターズについて



## 高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現する、高速化のエキスパート集団です。

### 概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都港区芝浦3-1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 28階
設立	2002年8月
上場区分	東証プライム（証券コード：3687）
代表取締役社長	三木 聡
資本金	5億5,446万円（2024年12月末現在）
社員数（連結）	315名（2024年12月末現在）
主なお客様	キオクシア株式会社 ルネサスエレクトロニクス株式会社 株式会社ネクスティ エレクトロニクス みずほ証券株式会社

### グループ体制

株式会社フィックスターズ	
Fixstars Solutions, Inc.  100%子会社 米国での営業及び開発	株式会社Fixstars Autonomous Technologies  株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV 自動運転向けソフトウェア開発に特化
株式会社Fixstars Amplify  100%子会社 量子コンピュータ関連のクラウド事業	株式会社Smart Opinion  連結子会社 乳がんAI画像診断支援事業
オスカーテクノロジー株式会社  連結子会社 ソフトウェア自動並列化サービス	株式会社Drone Autopilot Lab  100%子会社 ドローンの自動運転クラウド事業
株式会社Fixstars Investment  100%子会社 ベンチャー企業への投資及び育成を行う 投資事業会社	株式会社Sider ※清算中  100%子会社

## コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、  
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2006年 12月	PlayStation®3の発売を受け、「PS3® Information Site」を立ち上げ
2008年 12月	GPU高速化サービス開始
2009年 12月	「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2011年 10月	FPGA高速化サービス開始
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
2021年 10月	量子コンピューティング領域のさらなるサービス事業拡大を目指し、株式会社Fixstars Amplifyを設立
2022年 4月	東京証券取引所の市場再編に伴い、東京証券取引所プライム市場に市場変更

## コンピュータの恩恵を人々に

計算機器の性能を最大限に引き出すソフトウェア高速化技術とSDK開発技術を軸に、  
コンピュータの活用がより一層進むこれからの世界を支えていきます。

## フィックスターズの高効率なソフトウェアが、 クラウドとエッジの両サイドでコンピューティング基盤を支える世界の実現

ソフトウェアを効率的に動かすことで

パーパス

- できなかった計算をできる計算にする
- コンピューティングに必要な消費電力を低減する

コアバリュー

ソフトウェア高速化技術

SDK開発技術

ハードウェア・ソフトウェア両方に対する深い理解・知見

## ソフトウェア高速化サービス

当社事業の根幹をなすソフトウェア高速化サービスにおいては、ソフトウェアの最適化やアルゴリズム改良等によりコンピュータの性能を最大限に引き出すことで、大量データの高速処理を実現しています。



当社

オリジナルソースコードのご提供

高速化したソースコード



お客様



コンサルティング



高速化



サポート

- 性能評価
- ボトルネックの特定
- アルゴリズムの改良・開発
- ハードウェアへの最適化
- レポート作成
- レポートやコードへのQ&A
- 実製品への組込み支援

## 高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

### 多様な産業分野における高速化ソリューション

#### Semiconductor

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

#### Mobility<sup>1</sup>

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

#### Life Science

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化

#### Finance

- ・ デリバティブシステムの高速度化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速度化

#### Industrial

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速度化

数倍～数百倍の高速化による  
電力消費時間の短縮



Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化（1車種）のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる（当社推計）

## 高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

## 当社事業領域

## 社会的価値



自動運転の高性能化、実用化  
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

交通事故の根絶  
交通弱者へのサポート



AIによる画像診断支援

より気軽でより質の高い  
診断・治療へのアクセス



量子コンピューティングによる生産性の向上、労働の効率化

カーボンニュートラルへの貢献

